

雪の中の雪まつり!

2月5日(土)6日(日)の2日間智頭町の冬の一大イベント、「第12回智頭宿雪まつり」が盛大に開催されました。

今年は記録的な大雪で、雪不足の心配のない久々の雪の中での開催となりました。前日から、街のあちこちに雪灯籠やかまくら、沢山の雪像が並び、さらに駅前にはジャンボ滑り台が作られるなど、雪まつりムードを盛り上げました。

当日は、智頭駅前から、かわらまち商店街、智頭宿にかけてもちつき、豆まき、百人一首、杉玉作りなどの催し物のほか、地元特産品の屋台も出店され、来場したみなさんが、イベントに参加し



下町公民館前に設けられたかまくら

たり、屋台での食事を楽しみました。

今年は美作市から『あつひやうどん』、同市大原町から『古町風お好み焼き』、佐用町から『佐用ホルモソうどん』などの三宿場協議会の屋台も出店いただき、お店の前に行列ができるほど大人気でした。

5日には、石谷家住宅の土間で2010年フィンガーピッキングギターコンテストで日本人初、大会史上最年少で優勝したギタリストの田中彬博さんのギター演奏会が行われ、「涙そうそう」や「ふるさと」、田中さんのオリジナル曲などが披露され、観客のみなさんは聴き入っていました。

夜になると、雪灯籠に灯りが灯され幻想的な智頭の街がカメラマンや親子連れで賑わいました。

こんにゃく作り&こんにゃく料理講習会

農業委員会では、農地保全と地産地消の取り組みの一つとして、地元でとれたこんにゃく芋を使って「こんにゃく作りとこんにゃく料理講習会」を開催しました。

こんにゃく作りは、尾見の青木みさ江さんを講師に迎え、手作りこんにゃくの作り方を指導していただきました。その後、こんにゃくを使った照り焼きマヨネーズやクリーム煮など5品を参加者25人と農業委員で作り試食会を実施、にぎやかで楽しい交流ができました。

参加の応募が非常に多かったため先着順とさせていただきます。希望者には、農業委員会まで連絡いただければ「こんにゃくの作り方」「こんにゃく料理レシピ」「こんにゃく芋の栽培方法」を送付させていただきますのでご連絡ください。

連絡先：智頭町農業委員会 ☎ 75-4121



智頭のお米がケニアに届きました
—お米がつなく智頭とケニア—

「智頭米を活かした国際貢献」を進めているコントリビューションの会のメンバーら(代表 米本ゆかりさん、鳥取大学副学長の若良二さん、ケニア協会理事長の大野一之さん、他3名)が、1月21日(金)から7日間の日程でケニアのマトマイニにある児童福祉施設を訪問し昨年栽培した智頭米60kgを届けました。この取り組みは、智頭で栽培したお米を飢餓などで苦しむ国へ贈ることで、国際貢献の意識を高め、またグローバルな視点を身につける人材育成に繋がればという共通の目標で進みました。その熱い思いが実を結び、1年という短い間に夢の第1歩が実現することとなりました。



私たちを全員で迎えてくれました

施設の女性スタッフが私たちのために作ってくれたケニア料理をいただいた後、子どもたち全員とケニア外務省の方も参加され、お米の贈呈式が行われました。お米と一緒に届けた智頭の小学生の絵や習字などを見せると、子どもたちは運動会の絵のポーズをとったり習字をなぞってみたりと、嬉しそうなお様子でした。また、ポケモン図鑑にとても興味を示していました。

ケニア訪問報告会を3月2日(水)午後7時から智頭町総合案内所2階会議室で行いますので、ご来場ください。

マトマイニ・チルドレンズ・ホーム 院長 菊本照子さんからのお手紙



贈呈されたお米に喜ぶ子どもたち



菊本照子さん

智頭町のみなさんへ

アフリカの田んぼで、住民、小学生、ボランティアの方々が田植えをし、大事に育てて収穫して下さった手作りの智頭米60キロが、マトマイニ・チルドレンズ・ホームに届きました。遠い地の果てアフリカ・ケニアの孤児達を思いやり、愛の手を差し伸べてくださった皆さまの善意の「お米」です。一粒も無駄にしないよう、大事に食べます。有難うございました。

今、ケニアは積年の大干ばつで食料難が続き、乾燥地では既に餓死者が出始めました。水道の蛇口をひねると水ではなく蟻が出てきます。畑に植えた作物をねらってサルやイボイノシシが出没します。鶏をねらってマンガースも出ます。干ばつの時期には人間も動物も虫も植物も生き延びるのに精一杯なのです。智頭町は杉林に囲まれ清い水の流れる美しい町。国土の1.6%しか森がない、この乾いたサバンナの国の風景から見るとまるで「天国」のようです。でも、その「天国」のような山紫水明の地が10年、20年後も美しいままで残るかどうか、果してどうなのでしょう。昨年智頭に伺った折、「熊が毎日です！」と聞きました。足元に危険が迫っているのでは? と思った次第です。

地球温暖化による異常気象は、赤道直下の国々で最も大きな影響を与えていますが、日本もきっと多くの問題を抱えているのではないのでしょうか。まさに今、問われているのは、それぞれの地域にあって、身近な環境で起きている様々な現象から、次世代のために何を守っていくべきか考え行動に移すことではないかと思えます。「行動」は「知る」から始まります。宇宙船地球号の一員としての智頭町民という大きな視点を子どもさん達が持ち、田植えをし額に汗して収穫しながら、はるかアフリカの地でも、懸命に生きている子ども達に思いを馳せるとしたら、この繋がりは尊い「草の根の国際協力」第一歩ではないかと思えます。どこまで繋がりが広がっていくか、今後がとても楽しみです。

貧困や水不足に悩みながら、川から水を汲み、薪を焚いて食事の支度をするマトマイニの子ども達も、いつかあの空を飛ぶパイロットになろうなんて、でっかい夢と希望を抱いて生きています。故郷を愛し、世界に飛翔するような子ども達が育ってくれればと、切に願っています。智頭でもケニアでも……

もう一度、皆さまに心よりお礼申し上げます。アサンテ・サーナ!(ありがとうございました)

ケニア共和国リフトバレー州オンガタ・ロンガイ町
マトマイニ・チルドレンズ・ホーム 院長 菊本照子

森林セラピー「森のガイド」第3期生の募集

広報ちづ2月号と一緒に配布しております「森のガイド」募集チラシには、対象年齢を60歳までとしておりますが、健康に支障のない方であれば60歳以上の方でも申し込みいただけますので、町民のみならず多数の応募をお待ちしております。

詳しくは、募集チラシをご覧ください。役場建設農林課まで、お問い合わせください。

定員：30名(定員を超える場合は抽選とします)

申し込み期限：3月18日(金)



森林セラピー
イメージ
キャラクター
もりりん



Forest Therapy Chizu
森林セラピー
ちづ